

- 日時 令和2年6月30日(火) 15:40~16:55
- 出席者 会長(学識経験者)、副会長(高大連携大学)、保護者代表、
地域住民代表者、その他学校関係団体代表者
事務局(校長、教頭、事務長、首席、教務部長、特別活動部長、保健部長)
- 内容
- 1 校長挨拶
 - 2 委員紹介及び会長・副会長選出
 - 3 会長挨拶
 - 4 学校報告
 - ア) 学校運営協議会への意見書の提出
令和2年1月24日より令和2年6月29日まで なし
 - イ) 学校経営計画
 - ウ) 教務部 14期生カリキュラム、令和2年度行事予定
 - エ) 進路指導部 11期生の進路報告
 - オ) 生徒指導部 遅刻数統計、挨拶、人権教育
 - カ) 特別活動部 基本方針、行事、部活動、外部連携、生徒会執行部
 - キ) 保健部 業務、行事、重点的取組み
 - ク) 共生推進教室 校内体制、取組み、進路、課題、行事報告及び予定
 - 5 質疑応答・意見交換
 - 6 校長謝辞
 - 7 諸連絡

<質疑応答・意見交換> ○は委員からのコメント ⇒は事務局のコメント

***部活動について**

- 千里青雲で開催される部活動試合の応援に行きたいが、行ってもいいものかどうか躊躇することがある。
⇒基本的にお越しいたいて差し支えない。学校からもホームページのブログを活用するなど情報周知に努めたい。(注:コロナの影響で高体連が保護者の応援を制限している場合あり)
- 豊中市立の学校では、3段階で制限を緩和している。6月末までは軽めで息が上がらない程度の運動、7月上旬は負荷をかけた運動、7月中旬からは対外試合を可としている。

***地域連携について**

- 若者が地域に出る機会が減っている。
○ボランティアの人材は溢れているが、コロナ禍で活動場所が減っている。
○高校生が地域へ出向く機会を少しでも多く作ってほしい。コミュニケーションの大切さを知ったり、動画作成などで力を発揮してもらったりすると、自己有用感を育むことにもつながる。

***授業日数確保について**

○授業日数をどのように確保しているか？

⇒例えば、11月の日曜日に健康診断受診のための登校日があるが、授業も併せて実施することとした。また、2学期始業時は例年始業式後に2時間授業を実施しているが、今年度は始業式を実施せず、4時間の授業時間を確保した。

○創立記念日（6月15日）に授業が入っているが？

⇒本校では以前より創立記念日にも授業を実施しており、今年度に限ったことではない。

***行事について**

○豊中市の小中学校は、修学旅行が中止になった。万が一現地で感染者が発生した場合、対応が難しいというのが大きな理由。高校の状況はどうか？

⇒本校では今のところ予定どおり実施予定。文部科学省からも、中止を前提とした話はない。

○修学旅行以外の行事予定は？

⇒体育祭は中止し、学年単位でのスポーツ大会を実施する方向。10月実施も検討したが、行事予定の中に入れる余裕がなかった。文化祭も中止。準備期間も含め、3密を避けることは難しいと判断した。ただし、文化部の発表機会がなくなるため、8月31日（月）午後「青雲フェスタ」と題したイベントを開催予定。音楽祭は生徒からの開催要望が多く、開催したいと考えているが、コロナの状況により集合型での発表が難しければ、リモートで動画を作成して上映するなどの形になるかもしれない。

○中学校では体育大会の規模を縮小し、午前または午後に分け、学年単位で実施する予定。

***臨時休業期間中の学習状況について**

○4月から5月にかけて、生徒への学習課題はどのように提示していたか？

⇒各教科から提示した学習課題を、郵送（緊急事態宣言下）や配付（分散登校中）、学校ホームページ掲載等によって周知していた。5月下旬から6月上旬にかけて動画配信や視聴を試行し、オンライン授業の実施に向けた体制を構築したところ。

○きょうだいがいる場合は、自宅にPCが1台しかなく、オンライン授業を同時に受けることができない。スマホでは画面が小さすぎて長時間集中することが難しい。従来どおり紙媒体による課題配付の方がありがたい。

○大学ではすでにオンライン授業を実施している。動画を配信してもなかなか視聴回数が上がらないが、視聴自体を評価に含めることを周知すると、視聴回数がアップする。

○豊中市立の小中学校では、全員に端末を無償貸与する体制が整い、同時双方向型のオンライン授業が実施できるようになった。端末には共通のアプリをインストールしている。

***学校経営推進費の活用について**

○千里青雲高校に学校経営推進費が配当されるとのことだが、どのように活用していくのか？

⇒普通教室19室に設置型のプロジェクターを配備する。従来は移動式のプロジェクター9台のみで対応しなくてはならなかった。設置や片付けに時間も労力も多く要していたが、これからは全ホームルーム教室で、教材の提示や画像・動画の視聴、プレゼンテーションなど、生徒の主體的な学びにつながる生きた授業が行えるようになる。